令和８年度　公民館運営審議会議事録

日　時：令和8年8月２６日（水）１３：３０～１５：００
会　場：中央ライフデザインセンター　大会議室
出席者：各務原市公民館運営審議会委員
　　宮本　邦雄、嶋　一樹、小木曽　達也、野中　好子、三村　武俊、近藤　亜矢子、益川　優子
　事務局　丹羽教育長、伊藤産業活力部長
　　・いきいき楽習課　　横山課長、斉藤補佐、中村主事、竹中推進員
　　・中央ライフデザインセンター　船水館長、廣江主任主査、熊澤推進員
　　・西ライフデザインセンター　　丹羽館長、加藤推進員
　　・東ライフデザインセンター　　澤井館長、吉川推進員
　　・川島ライフデザインセンター　山田館長、橋本推進員

１．教育長あいさつ　　記録割愛
２．産業活力部長あいさつ　　記録割愛
３．委員長あいさつ
　【委員長】
　　ＡＩが浸透しつつあり、教育には大きな変化があるのではないか。答えが出るよりも考える時間、スローダウンする教育が大事。子ども達にもゆったり学ぶ機会が提供できるといい。
４．議事【委員長進行】
　①公民館活動について
　　・各務原市ライフデザインセンター運営方針　　課長より説明
　　・各ライフデザインセンター講座企画方針
　　各館長より説明（中央ライフ　→　西ライフ　→　東ライフ　→　川島ライフ）

　◎各委員より（※要約）
　【委　員】　市民の皆さんのニーズに応えた多様な講座があり、ライフデザインセンターの機能が果たされている。時代と共に必要な新しいものをどんどん取り入れ、家庭の教育力の強化につなげるという結び付けの中でやられている。教育としての機能を果たす目的で企画されているのが素晴らしい。
　　結婚相談所と同じ階になりコラボしたことで、出会いの場になるものが生まれ、少子高齢化の解決にもつながってくのではないか。いろいろな課題を日々解決しようと試行錯誤しているのがよい。
　　家庭に関わることについて、土・日曜日に開催していただいているのはありがたい。子ども達と一緒に学校での基礎が体験できる講座を、もっと開講していただけるとありがたい。

　【委　員】　伝統文化の継承的なものから時代の最先端のものまで、いろいろな企画がたくさんあった。ゼロスマカフェで高校生が関わっている。夏休みに中学生が講師役で小学生に教える場面があった。今度は、高校生が中学生に…と繋がっていくことができるのがライフデザインセンターの活動だと感じた。
　　コロナの影響で大人の生活や学校が変わり、タブレットが一人一人に与えられ、授業で活

用するというのは大きな転換だった。昔は先生がリードして学習を進める授業が多かったが、今は主体的に自分で考えて、選んで学習を進めている。授業がきっかけになり、自分で調べてみようと思ったことがライフデザインセンターの講座に繋がり、興味関心がさらに広まっていくとよい。

子ども達に向けた講座がたくさんあるが周知が課題だと思う。親子で活動をすることが少なくなっているが、必要なことであり、講座の中に組み込んでいただけるのはありがたい。

【委　員】　それぞれ地域性を活かし、いろいろ工夫されている。人生100年時代と言われる中で、講座数が年々増加し、参加者も多くなっており、皆さんが関心を持っている。高齢化に伴うクラブサークルの減少はやむを得ないが、若い方にも関心を持って参加してもらえるといい。

「しこうのじかん∞」が内容も豊富で、皆さんが楽しく活動している。最近は男性が参加できる講座が多くなり、子どもと一緒に楽しめる講座など、父親の出番が増えている。

【委　員】　各ライフの特色や地域の特徴が出され、分野が広くなっている。各分野の専門家に講師をやっていただき、中身がより充実している。

「しこうのじかん∞」は幅広い分野の専門的な講師が多く、高齢者は興味がわく。

周知について、出張所などいろいろなところに資料が置いてあり、自分から情報を取りにいくことも必要である。

高齢化でクラブサークルがどんどん減っており、発表会に参加する団体が半分ぐらいになっている。非常に難しい問題だが、その辺りをどうするかが課題である。

少子高齢化で非常に難しい世の中になっており、市民が一緒になって考えないといけない。

【委　員】質問：市外の人が講座に応募されても市民と同じように受講できるのか？

【事務局】回答：市内に在住在勤の方を優先にしているが、定員に少し余裕のあるような講座であれば、市外の方も受け入れている。

【委　員】質問：前期講座の受講者数が記載されている講座と記載されていない講座があるが、前期講座はいつ頃閉めるのか？閉めた時点でこの会議をした方が比較しやすいと思う。

【事務局】回答：一番遅い講座が9月の末ぐらいに終わる。申し込み自体は締め切っているので来年度からは受講者数をいれるようにする。

【委　員】質問：公民館運営の事業の評価として、講座の参加人数やクラブサークル化が評価指標になるのか？

【事務局】回答：参加人数だけで評価はしていない。地域課題の解決に資する講座など、多様な分野を意識した講座を開催するようにしている。

【委　員】　教育は長いスパンで結果が出てくるものなので評価が難しい部分もあるが、各講座を実施する目的が見えてくると私たちも評価がしやすい。

また、各務原市がいきいき楽習課と4つのライフデザインセンターで生涯学習を推進している理由や目的など、仕組みの部分が可視化されていると委員も意見しやすい。

生涯学習に対する市の考え方を示してもらい、審議会としてよりよい議論が出来る場になっていくとよい。

【委　員】　講師として講座をやってみたからこそ、見つかった課題があった。社会教育の原点を意識する必要がある。社会教育の原点を基本方針の中に入れる必要があるのではないか。

防災や減災に関する講座が全体として薄い。また、防犯についても今後必要になってくる。地域に還元できる教育だと思うので、防犯教育にも力を入れてほしい。

会議の開催時期については、データが揃い、区切りのいいところで開催されるのが望ましい。

【委　員】質問：外国人の居住者に対する生涯学習支援について、可児市や美濃加茂市は多文化共生センターや国際交流協会などの担当部局があるが、各務原市ではどのようになっているのか？

【事務局】回答：産業活力部観光交流課において多文化共生の指針を作っており、国際交流員を配置し、日本語教室や国際協会の方のイベントなどを実施している。